

国際関係学部国際関係学科のカリキュラム・ポリシー

島根県立大学のカリキュラム・ポリシーの下、国際関係学部国際関係学科は、教育究上の目的及び学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、基礎教養科目、専門基礎科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組み合わせた授業を行います。

教育課程編成の考え方

- (1) 1年次を中心に「基礎教養科目群」を配置し、幅広い教養教育を通じて「島根県立大学憲章」が謳う豊かな人間性と高い倫理観を涵養するために、社会科学・人文学・自然科学の「一般教養科目」を履修するとともに、情報・統計処理の基礎を学ぶ「情報・統計科目」を履修します。
- (2) 「基礎教養科目群」に「語学・多文化理解科目」を配置し、英語及び北東アジア言語(中国語・韓国語・ロシア語)を履修します。
- (3) 初年次教育の柱として、大学の学修にふさわしい表現力を備えるために、「アカデミック・ライティング」(国際関係コース)、「スタディスキル」(国際コミュニケーションコース)を必修とします。
- (4) 専門的知見修得の基盤となる知識を身につけるために、1年次から2年次を中心に「専門基礎科目群」を配置し、「国際関係学科共通科目」と「国際関係コース科目」もしくは「国際コミュニケーションコース科目」における必修科目、選択科目から所定の単位を体系的に履修します。
- (5) 専門的知識について基礎から応用へと体系的に発展・高度化させて学修するために、2年次後期から3・4年次を中心に配置された「専門科目群」の「国際関係コース科目」もしくは「国際コミュニケーションコース科目」の選択科目から所定の単位を履修します。
- (6) 4年次には、高度な専門的知識を活用して、卒業研究に関わる調査・分析・研究を遂行します。
- (7) 全体を通して予習・復習時間を十分に取れるように、履修登録単位数の上限設定(キャップ制)を導入します。

学習内容及び学習方法

- ・教養教育、専門教育の知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。
- ・英語や北東アジア言語の実践的な運用能力および多彩な他者と共感する姿勢やコミュニケーションを図る態度を身につけるために、主として演習形式の科目を履修します。
- ・能動的・主体的に学修する態度を涵養するために、すべての学年で習などの少人数教育を履修します。専門教育の学習効果を高める演習科目として、基礎演習と専門演習を段階的に配置し、必修科目に指定します。演習では、学生が自ら研究

課題を設定し、主体的に調査・研究に取り組んだうえで、研究報告を行い、その内容について他の参加者と議論を行います。

学修成果の評価方法

- ・学修の成果は、各科目が定める方法で行う試験により厳格に評価します。評価の基準は、各科目のシラバスに記載された到達目標をどの程度達成できているのかという観点から定めます。
- ・試験による評価については、中間・期末試験、レポート試験、小テスト、平素の授業理解を確認するリアクション・ペーパーなどを科目の性質に応じて組み合わせて行い、その方法と配点は開講に際してシラバス等により明示します。
- ・中間・期末試験、レポート試験では、具体的な評価の基準を定め、異議申し立て制度を設置することにより、厳格で公平な成績評価を行います。

国際コミュニケーションコースのカリキュラム・ポリシー

国際コミュニケーションコースが掲げるディプロマ・ポリシーに示す能力を身につけることができるよう、つぎの基本的な考え方で教育課程を編成します。

教育課程編成の考え方

- (1) 1年次を中心に「基礎教養科目群」を配置し、日本と海外の社会や文化についての関心を高めるとともに、これらをめぐる諸問題について捉える視点を養うために、社会科学・人文学・自然科学の「一般教養科目」を履修します。また、情報・統計処理の基礎を学修するために、「情報・統計科目」を履修します。
- (2) 外国語活用能力の基盤を修得するとともに、海外の文化についての理解を深めるために「語学・多文化理解科目」を履修します。
- (3) 大学の学修にふさわしい表現力を備えるために、初年次教育の効果を高めるべく、少人数ゼミの「スタディスキル」を必修とし、専門基礎科目との学修上の連携を図ります。
- (4) 1年次から2年次を中心に「専門基礎科目群」を配置し、「国際コミュニケーションコース科目」と「国際関係学科共通科目」または「国際関係コース科目」における必修科目、選択科目から所定の単位を履修し、国際的な文化、コミュニケーションに関する諸問題の背景や言語学の基礎について学修するとともに、英語や北東アジア言語（中国語・韓国語・ロシア語）の運用能力の基礎を身につけます。
- (5) 2年次後期から3・4年次を中心に配置された「専門科目群」の「国際コミュニケーションコース科目」の選択科目を中心に所定の単位を履修し、コミュニケーション学や言語学の専門的知識について学修するとともに、国際通用語である英語については「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に高いレベルで身につけ、また、北東アジア言語については実践的なコミュニケーション力を身につけます。
- (6) 4年次には、1年次から多様な分野を学修して培った高度な専門知識や学際的な視点を活用して、卒業研究に関わる調査・分析・研究を遂行します。
- (7) 全体を通して予習・復習時間を十分に取れるように、履修登録単位数の上限設定（キャップ制）を導入します。

学修内容及び学習方法

- ・一般教養や、言語学・コミュニケーション学及び多文化共生・国際社会を理解するための基礎・専門知識を修得するために、主として講義形式の科目を履修します。
- ・英語や北東アジア言語の実践的な運用能力を身につけるために、主として演習形式の科目を履修します。
- ・異なる考えを持つ他者と、共通理解を形成しようとする姿勢や積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけるために、海外の大学での研修授業やICTを用いた海外の大学との合同授業といった演習科目を履修します。
- ・能動的・主体的に学修する態度を涵養するとともに、自らの考えを積極的に発信し、他者の価

値観も受容する姿勢を身につけるために、全ての学年で演習形式の少人数教育科目を必ず履修します。